

思考力・判断力・表現力を育てる社会科授業

「生きる力」の理念の実現に向けて、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」とそれらの活用を通じた「思考力・判断力・表現力等の育成」が求められている。ここで検討すべきは、通教科的な「思考力・判断力・表現力」ではなく、社会科が求める「思考力・判断力・表現力」であり、その育成の方法であろう。

1 社会科で育成する思考力・判断力・表現力

これまで、社会科でこそ育成することが求められる思考力・判断力・表現力とは何か、どうすれば育てることができるのかについて実践を通して検討してきた。そして、そのような思考力・判断力・表現力とは社会的事象や社会の問題を「読み解く力」¹⁾であり、それは児童・生徒が社会的事象や問題に対して問いかけ、追究する活動の中で育つ力だととらえた（表1を参照）。

表1：社会科で育成する思考力・判断力・表現力

| 学 習 活 動 | 活動の中で育っていく能力 |
|--|----------------|
| 社会的事象や問題に対して「どのようになっているか（いつ、どこで、だが、何を、どのように、どのような）」と問いかけ、資料等から必要な情報を読み取り、知ったことをまとめる。 | （観察・）資料活用力、表現力 |
| 社会的事象や問題に対して「なぜか、どうしてか」と問いかけ、事象相互の関係やその意味・意義を多面的・多角的に考えて、わかったことをまとめる。 | 思考力、表現力 |
| 社会的事象や問題に対して「善いか、悪いか」「どうしたらよいか（どうしたらよかったか）」「もっとよい方法はないか」と問い、課題解決の方法や方策を公正に判断して、その過程や結果をまとめる。 | 判断力、表現力 |

2 思考力・判断力・表現力を育成する学び合い

社会科で求める思考力・判断力・表現力を育てる授業には、「どのようになっているか」、「なぜか」、「どうしたらよいか」といった問いが不可欠である。そして、思考力・判断力・表現力を育成する学び合いとは、これらの問いの答えを児童・生徒が相互にかかわり合いながら追究していく学習ととらえることができる。具体的には、①問題を見出す学習（社会的事象から問題を発見し、学級全体で追究していく学習問題を考える）、②問題を追究・解決する学習（これらの問題の答えを児童・生徒が相互にかかわり合いながら追究・解決する）、③実社会・実生活に参加・参画する学習（実社会・実生活の問題に目を向け、具体的な解決策を考え提案したり説得したりする）を単元の中でバランスよく展開するような学習過程が求められる²⁾。

3 思考力・判断力・表現力の育成と社会科

社会科で求める思考力・判断力・表現力を育成する授業とは、児童・生徒が社会的事象や問題を読み解くものであり、知る・わかるだけではなく、よりよい社会の形成に参画する力を育てるものであった。このような授業は、「社会参加できる市民」の育成をねらうものであり、社会科の目標である「平和で民主的な国家・社会の形成」へとつながっていくであろう。

（共同研究者：島根大学教育学部初等教育開発講座、加藤 寿朗）

【参考文献等】

- 1) 小原友行他編著『「思考力・判断力・表現力」をつける中学歴史授業モデル』明治図書、2011
- 2) 国立教育政策研究所教育課程研究センター報告書『特定の課題に関する調査（社会）調査結果（小学校・中学校）』、2008